

公益財団法人 がんの子どもを守る会

2022年度事業報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT

Apr.01,2022～ Mar.31,2023



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311(代表)

03-5825-6312(相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検 索



CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2022年度収支報告	6
 2022年度の事業概況	
①療養援助事業	10
②相談事業及び関連事業	11
③治療研究事業	17
④総合支援施設運営事業	18
⑤小児がん・難病対策	19
⑥支部活動	20
⑦広報・啓発・募金活動 等	22
⑧国際活動	26
⑨奨学金事業	27
⑩ボランティアコーディネート・研修会	27
⑪調査研究協力	28
⑫2022年度年次大会開催	28
⑬クリスマスプレゼント	29
⑭物品・ボランティアのご協力	29
 寄付・募金者一覧	30

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔



2022年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

過去三年に亘って拡大・縮小の波を繰り返しながら我々を悩まし続けてきた新型コロナウイルス感染ですが、感染症法上の指定が5類になり、公式には暗雲が薄らいできたかのように見える中で、このご挨拶の筆が執れることに少しほっとしています。

小児がん患児や家族そして経験者の支援に携わる立場の私たちの2022年度は、前年度に引き続き不自由な環境下で様々な工夫をしながら活動をせざるを得ない一年であり、感染拡大の影響で一部の業務に遅れが出たこともありましたが、事務局職員の工夫や努力によりそれらを乗り越え、無事に年度を終わらせる事が出来たことを感謝しております。

詳しくは本報告書をお読みいただきたいと思います。と思いますが、本年度も引き続き制約の多い中で、最終的にほぼ計画通りの事業活動を実施することが出来ました。また財政面では、対面での活動に制約が残り、交流会や啓発活動、更には啓発や寄付をお願いするイベント等の開催が難しく昨年同様に低迷傾向の一般寄付金収入を、交通費や会場費など支出面の削減で補ったことに加え篤志の方からの特別なご寄付があり、最終的に安定した決算とすることが出来ました。

このような状況ではありましたが、当会の基幹的事業を含む事業全般を着実に推進することが出来ました。それらに加え、前年度から全国の有志の方々に参加していただき取り纏めました、国の第4次がん対策

推進基本計画に向けた要望書を、年度初めに厚生労働省及び文部科学省に提出し、さらにその延長として本年度は、地方自治体のがん対策推進基本計画改定に向けた要望書の準備も進めるなど、小児がんを取り巻く環境の変化に呼応した新たな活動も計画通り推進することが出来ました。また、新たな啓発・募金活動の一つとして、東京マラソンの指定団体としての新たな活動も開始することが出来、今後の寄付基盤の強化となることが期待されています。

このように、当会が2022年度を無事に乗り越えることができましたことに対して、常日頃から当会の活動に多大なご支援を頂いている皆さま、事業活動に直接参加して下さいの方々、そして日々の活動を担う事務局職員の皆さんに改めて御礼を申し上げます。

冒頭に触れましたように、新型コロナウイルス感染の公式な位置づけは変わりましたが、ウイルスが撲滅されたわけではなく、当分の間いわゆる“With Corona”での日常が続くと思われ、当会としても事務局の運営も含め全ての面において、常に安全に十分な配慮を忘れずに活動を推進していく必要があります。

どんな環境下でも小児がん患児・家族そして経験者の支援を続けて行くというのが、創立以来の私たちの使命であります。そのために、不肖私を含めた理事並びに事務局職員一同、引き続き努力を続けて参る所存であります。当会の活動をご理解いただきご支援を頂いている皆様におかれましても、当会の活動への一層のご理解と継続的なご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2023年5月吉日



組織概要

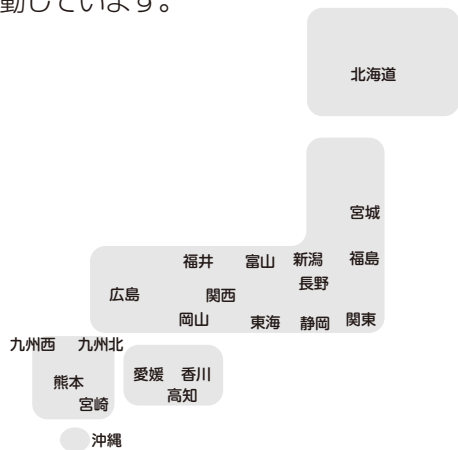
※ 2023 年 3 月 31 日現在

名 称	公益財団法人 がんの子どもを守る会
設 立	1968 年 10 月 31 日
設 立 趣 旨	当会は、1968 年 10 月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
主 務 官 庁	内閣府
主たる事務所	浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
従たる事務所	亀 戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸 6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553 大 阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町 2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
組 織	理 事 14 名（理事長 1 名、副理事長 2 名） 監 事 1 名 評 議 員 10 名 職 員 26 名 普通会员 1,590 名 賛助会員 243 名（法人 15 社、個人 228 名）

支 部	当会には全国に 21 の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。
-----	---

21 支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、
富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、
広島、香川、愛媛、高知、九州北、
九州西、熊本、宮崎、沖縄



役 員 名 簿	（肩書は 2023 年 3 月末時点のものです）
理 事 長	
山下 公輔	親/元 PwC アドバイザリー合同会社 シニアアドバイザー
副理事長	
細谷 亮太	当会嘱託医/聖路加国際病院 顧問
近藤 博子	親/元 当会ソーシャルワーカー
理 事	
増子 孝徳	親/弁護士
橋都 浩平	株式会社メディカルノート 社外取締役/ 株式会社ジャパン・メディカルカンパニー 取締役/ 元 東京大学医学部 小児外科学 教授 認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長/ 元 アメリカンファミリー生命保険会社 （現 アフラック生命）会長
松井 秀文	親/当会九州北支部 幹事 親/当会福井支部 代表幹事 親/当会関西支部 代表幹事/ NPO 法人日本クリニクラウン協会 相談役
張 光陽	親/当会会員
坪田 起久恵	当会会員
森下 さふみ	小児がん経験者
田中 徹	親/当会会員
井上 敏	当会会員
舩本 大輔	小児がん経験者
酒井 信夫	親/当会会員
丹野 泰	常務理事/当会事務局長
監 事	
三川 勝夫	親/三川会計事務所 代表
評 議 員	
河 敬世	大阪母子医療センター 顧問
深澤 重幸	親/株式会社コトブキ 専務取締役
西田 知佳子	NPO 法人ハビネスト 代表 ソーシャルワーカー
平野 朋美	公益社団法人 埼玉県医療社会事業協会 監事
幸島 静枝	親/当会会員
稲田 浩子	社会福祉法人 ゆうかり学園ゆうかり医療療育センター小児科 部長
鈴木 中人	親/当会東海支部 代表幹事
隈部 俊宏	北里大学医学部 脳神経外科 主任教授
本橋 由紀	株式会社毎日新聞社 平塚通信部 記者
丸山 謙一郎	小児がん経験者
療養援助委員会	
前田 美穂	日本医科大学付属病院 小児科 名誉教授
黒田 達夫	慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
柳澤 隆昭	東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科 教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 部長
松本 公一	国立成育医療研究センター 小児がんセンター長
川井 章	国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長/ 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長
康 勝好	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 科長

調査研究委員会

橋都 浩平	当会理事
細谷 亮太	当会副理事長/当会嘱託医
星 順隆	元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部
上別府 圭子	国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所家族看護学領域 教授
増子 孝徳	当会理事
山下 公輔	当会理事長

治療研究委員会

山下 公輔	当会理事長
黒田 達夫	慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
小原 明	東京工科大学 医療保健学部 看護学科 特任教授
小澤 美和	聖路加国際病院 小児科 部長
陳 基明	さくら耳鼻科小児科医院 副院長
菱木 知郎	国立大学法人 千葉大学大学院医学研究院 小児外科学 教授
丸 光恵	兵庫県立大学 看護学部 教授
〈専門委員〉	
野寄 美和子	独協医科大学 特任教授/ 独協医科大学埼玉医療センター 放射線治療センター長
逸見 仁道	アズサイエンス株式会社 小田原営業所
中澤 温子	埼玉県立小児医療センター臨床研究部 部長

小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会

関谷 亜矢子	フリーアナウンサー
大賀 正一	日本小児血液・がん学会 理事長
松井 秀文	当会理事
沢辺 隆雄	産経新聞 論説副委員長
田中 徹	当会理事

SMS キャンプ委員会

稲田 浩子	当会評議員
高木 正稔	東京医科歯科大学 茨城県小児・周産期地域医療学講座 寄附講座教授
渡邊 輝子	済生会横浜市東部病院 看護部長
本橋 由紀	当会評議員

富士山キャンプ委員会

別所 文雄	日本医療科学大学 保健医療学部 医療基礎教育科/ 杏林大学医学部付属病院 小児科 聖路加国際病院 小児科 部長
小澤 美和	長崎県立こども医療福祉センター
安野 啓一郎	当会ボランティア
高土 陽一郎	

名誉顧問

柳田 邦男	作家
-------	----



会の歴史

(年度)	
1962	設立趣意書作成
1966	NHKカメラリポートで紹介
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
1969	小児がん全国登録開始
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行
1976	特定公益増進法人の認定
1978	本会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム
1981	新潟支部設立総会
1984	日本小児がん研究会発足
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1998	創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会

(年度)	
2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
2008	創立40周年記念事業がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成/大阪事務所開設 高知支部設立総会
2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
2011	東日本大震災緊急療養援助実施
2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どもをきょうだいのきもち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
2015	第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん こどもでんわ相談室」開設
2016	当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の 連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出 「小児がんの子どもをきょうだいたち」刊行
2017	アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 業務委託から直営による運営を開始 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施 アフラックペアレンツハウス浅草橋 リニューアルオープン
2018	アフラックペアレンツハウス亀戸リニューアルオープン 創立50周年記念式典開催（東京） 創立50周年記念誌発行 国際小児がんの会（CCI）/第50回国際小児がん学会（SIOP）京都開催（運営参画）
2019	アフラックペアレンツハウス大阪 開設10周年（2020年1月） 第3期がん対策推進基本計画推進にむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 小児慢性特定疾病対策見直しにむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（要望書）提出
2020	コロナ禍により年次大会をWeb開催/テーマ「小児がんの移行期医療」 アンケート「新型コロナウイルス感染症による小児がん患者・家族の治療・生活への影響について」実施 小児がん対策の更なる充足についての要望書（厚生労働省）提出 切れ目なく教育を受けることができる教育環境の充足を求める要望書（文部科学省）提出
2021	アフラックペアレンツハウス亀戸開設20周年（2021年2月） 「小児がん経験者の健康管理サイト」開設
2022	小児・AYA世代がん対策政策提出のためのワーキンググループの意見を取り纏めて、 「小児がん患者・家族からの要望書」として厚生労働大臣および文部科学大臣へ提出 「小児がん経験者のための健康管理応援ガイド」刊行



2022年度収支報告

(2022年4月1日～
2023年3月31日)

2022年度収支報告



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
財産運用益	6,773,666			6,773,666
普通預金利息	3,849			3,849
定期預金利息	7,200			7,200
投資有価証券利息	6,762,617			6,762,617
受取寄付金	280,688,985		59,021,872	339,710,857
特定寄付金	4,203,180			4,203,180
一般寄付金	59,021,873		59,021,872	118,043,745
受取寄付金振替額	217,463,932			217,463,932
受取協賛金	1,500,000			1,500,000
ゴールドリボン協賛金収入	1,500,000			1,500,000
受取補助金等	8,188,405			8,188,405
受取補助金等振替額	8,188,405			8,188,405
受託料	448,408			448,408
調査研究受託料	0			0
相談支援受託料	448,408			448,408
受取利用料	2,979,950			2,979,950
施設利用料	2,649,800			2,649,800
リネン利用料	330,150			330,150
雑収益	777,933	1,800,000		2,577,933
雑収益	777,933	1,800,000		2,577,933
指定正味財産からの振替額	591,000			591,000
指定寄付金	591,000			591,000
経常収益計	301,948,347	1,800,000	59,021,872	362,770,219
(2) 経常費用				
事業費	299,074,955	572,258		299,647,213
人件費	83,276,869			83,276,869
法定福利費	9,822,536			9,822,536
給与	69,990,423			69,990,423
福利厚生費	54,950			54,950
退職給付費用	3,408,960			3,408,960
助成費	24,297,850			24,297,850
療養助成費	14,902,850			14,902,850
治療研究助成費	7,395,000			7,395,000
調査研究助成費	2,000,000			2,000,000
活動費	67,460,233	306,306		67,766,539
会議費	169,638			169,638
旅費交通費	2,152,607			2,152,607
通信運搬費	6,925,929			6,925,929
消耗品費	2,031,096			2,031,096
修繕費	2,294,761			2,294,761
印刷製本費	2,970,906			2,970,906
光熱水料費	11,175,255			11,175,255
保険料	973,518	16,816		990,334
諸謝金	690,472			690,472
業務委託費	1,121,868			1,121,868
広報費	7,019,871			7,019,871
支援費	1,172,307			1,172,307
図書資料費	217,102			217,102
保健衛生費	359,307			359,307
ゴールドリボン制作費	1,500,144			1,500,144
宿泊施設運営費	526,340			526,340
租税公課	3,783,800	72,200		3,856,000
リネン賃借料	807,180			807,180
会場費	3,504,660			3,504,660
雑費	2,656,522	330		2,656,852
保守料	7,168,159	216,960		7,385,119
リース料	1,911,818			1,911,818
植栽管理費	200,000			200,000
借地料	844,620			844,620
衛生管理費	4,514,789			4,514,789
消耗什器備品費	767,564			767,564
減価償却費	29,560,003	265,952		29,825,955
建物減価償却額	26,891,643	100,247		26,991,890
建物附属設備減価償却額	2,228,033	105,820		2,333,853

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
ソフトウェア減価償却額	50,400			50,400
什器備品減価償却額	267,204	59,885		327,089
一括償却資産減価償却額	122,723			122,723
奨学金給付費	94,480,000			94,480,000
奨学金給付費	94,480,000			94,480,000
管理費			29,291,611	29,291,611
人件費			20,056,494	20,056,494
給与			15,031,646	15,031,646
法定福利費			2,684,158	2,684,158
福利厚生費			68,050	68,050
退職給付費用			2,272,640	2,272,640
活動費			8,135,598	8,135,598
会議費			23,182	23,182
旅費交通費			85,173	85,173
通信運搬費			580,391	580,391
消耗品費			68,778	68,778
修繕費			0	0
印刷製本費			756,650	756,650
図書資料費			57,100	57,100
保守料			423,698	423,698
リース料			2,782,428	2,782,428
支払報酬			2,112,000	2,112,000
租税公課			5,400	5,400
消耗什器備品費			122,916	122,916
雑費			1,117,882	1,117,882
減価償却費			1,099,519	1,099,519
ソフトウェア減価償却額			234,980	234,980
什器備品減価償却額			864,539	864,539
経常費用計	299,074,955	572,258	29,291,611	328,938,824
評価損益等調整前当期経常増減額	2,873,392	1,227,742	29,730,261	33,831,395
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	2,873,392	1,227,742	29,730,261	33,831,395
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	2,873,392	1,227,742	29,730,261	33,831,395
他会計振替額	585,901	△ 585,901		0
税引前当期一般正味財産増減額				
法人税・住民税及び事業税		△ 219,800		△ 219,800
当期一般正味財産増減額	3,459,293	422,041	29,730,261	33,611,595
一般正味財産期首残高	416,541,885	△ 428,177	180,499,059	596,612,767
一般正味財産期末残高	420,001,178	△ 6,136	210,229,320	630,224,362
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	7,452,218			7,452,218
受取助成金	7,452,218			7,452,218
助成金	7,452,218			7,452,218
受取寄付金	199,987,906			199,987,906
指定寄付金	199,987,906			199,987,906
三重ファミリールーム指定寄付金	1,110,000			1,110,000
施設運営指定寄付金	100,669,231			100,669,231
奨学金指定寄付金	98,208,675			98,208,675
特定資産評価損益	△ 4,634,187			△ 4,634,187
一般正味財産への振替額	△ 226,243,337			△ 226,243,337
指定寄付金	△ 218,135,699			△ 218,135,699
受取助成金等	△ 8,107,638			△ 8,107,638
当期指定正味財産増減額	△ 14,169,026			△ 14,169,026
指定正味財産期首残高	2,025,886,054			2,025,886,054
指定正味財産期末残高	2,011,717,028			2,011,717,028
III 正味財産期末残高	2,431,718,206	△ 6,136	210,229,320	2,641,941,390



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	AFLAC ペアレンツハウス 特別会計	三重ファミリー ルーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特 別会計	休眠預金等 活用助成事業 特別会計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
財産運用益	6,773,666	6,772,550	452	194	470	0
普通預金利息	3,849	2,733	452	194	470	0
定期預金利息	7,200	7,200	0	0	0	0
投資有価証券利息	6,762,617	6,762,617	0	0	0	0
受取寄付金	339,710,857	122,246,925	118,145,257	1,110,000	98,208,675	0
特定寄付金	4,203,180	4,203,180	0	0	0	0
一般寄付金	118,043,745	118,043,745	0	0	0	0
受取寄付金振替額	217,463,932	0	118,145,257	1,110,000	98,208,675	0
受取協賛金	1,500,000	1,500,000	0	0	0	0
ゴールドリボン協賛金収入	1,500,000	1,500,000	0	0	0	0
受取補助金等	8,188,405	1,122,218	0	0	0	7,066,187
受取補助金等振替額	8,188,405	1,122,218	0	0	0	7,066,187
受託料	448,408	448,408	0	0	0	0
調査研究受託料	0	0				
相談支援受託料	448,408	448,408	0	0	0	0
受取利用料	2,979,950	122,000	2,732,650	125,300	0	0
施設利用料	2,649,800	122,000	2,402,500	125,300	0	0
リネン利用料	330,150	0	330,150	0	0	0
雑収益	2,577,933	2,559,223	18,710	0	0	0
雑収益	2,577,933	2,559,223	18,710	0	0	0
指定正味財産からの振替額	591,000	591,000	0	0	0	0
指定寄付金	591,000	591,000	0	0	0	0
経常収益計	362,770,219	135,362,324	120,897,069	1,235,494	98,209,145	7,066,187
(2) 経常費用						
事業費	299,647,213	67,250,801	120,897,069	3,759,725	100,673,431	7,066,187
人件費	83,276,869	22,272,356	54,724,513	0	4,000,000	2,280,000
法定福利費	9,822,536	3,134,681	6,187,855	0	500,000	0
給与	69,990,423	15,724,715	48,485,708	0	3,500,000	2,280,000
福利厚生費	54,950	4,000	50,950	0	0	0
退職給付費用	3,408,960	3,408,960	0	0	0	0
助成費	24,297,850	24,297,850	0	0	0	0
療養助成費	14,902,850	14,902,850	0	0	0	0
治療研究助成費	7,395,000	7,395,000	0	0	0	0
調査研究助成費	2,000,000	2,000,000	0	0	0	0
活動費	67,766,539	20,414,643	38,410,054	2,042,991	2,193,431	4,705,420
会議費	169,638	159,888	0	0	9,750	0
旅費交通費	2,152,607	1,861,778	176,389	112,000	2,440	0
通信運搬費	6,925,929	3,417,836	2,694,088	54,486	638,419	121,100
消耗品費	2,031,096	1,074,306	881,977	32,573	23,265	18,975
修繕費	2,294,761	0	2,118,761	176,000	0	0
印刷製本費	2,970,906	665,937	205,141	0	570,368	1,529,460
光熱水料費	11,175,255	0	10,854,889	320,366	0	0
保険料	990,334	84,605	897,979	7,750	0	0
諸謝金	690,472	623,656	0	0	27,840	38,976
業務委託費	1,121,868	0	996,600	125,268	0	0
広報費	7,019,871	4,097,102	0	0	0	2,922,769
支援費	1,172,307	1,172,307	0	0	0	0
図書資料費	217,102	21,120	195,982	0	0	0
保健衛生費	359,307	0	309,307	50,000	0	0
ゴールドリボン制作費	1,500,144	1,500,144	0	0	0	0
宿泊施設運営費	526,340	526,340	0	0	0	0
租税公課	3,856,000	74,000	3,782,000	0	0	0
リネン賃借料	807,180	0	807,180	0	0	0
会場費	3,504,660	3,504,660	0	0	0	0
雑費	2,656,852	1,300,050	397,073	21,000	921,349	17,380
保守料	7,385,119	216,960	6,953,794	157,605	0	56,760
リース料	1,911,818	18,400	1,893,418	0	0	0
植栽管理費	200,000	0	200,000	0	0	0
借地料	844,620	0	0	844,620	0	0
衛生管理費	4,514,789	1,774	4,431,215	81,800	0	0
消耗什器備品費	767,564	93,780	614,261	59,523	0	0
減価償却費	29,825,955	265,952	27,762,502	1,716,734	0	80,767

科 目	合 計	一般会計	AFLAC ペアレンツハウス 特別会計	三重ファミリー ルーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特 別会計	休眠預金等 活用助成事業 特別会計
建物減価償却額	26,991,890	100,247	25,174,909	1,716,734	0	0
建物附属設備減価償却額	2,333,853	105,820	2,228,033	0	0	0
ソフトウェア減価償却額	50,400	0	50,400	0	0	0
什器備品減価償却額	327,089	59,885	231,097	0	0	36,107
一括償却資産減価償却費	122,723	0	78,063	0	0	44,660
奨学金給付費	94,480,000	0	0	0	94,480,000	0
奨学金給付費	94,480,000	0	0	0	94,480,000	0
管理費	29,291,611	29,291,611	0	0	0	0
人件費	20,056,494	20,056,494	0	0	0	0
給与	15,031,646	15,031,646	0	0	0	0
法定福利費	2,684,158	2,684,158	0	0	0	0
福利厚生費	68,050	68,050	0	0	0	0
退職給付費用	2,272,640	2,272,640	0	0	0	0
活動費	8,135,598	8,135,598	0	0	0	0
会議費	23,182	23,182	0	0	0	0
旅費交通費	85,173	85,173	0	0	0	0
通信運搬費	580,391	580,391	0	0	0	0
消耗品費	68,778	68,778	0	0	0	0
印刷製本費	756,650	756,650	0	0	0	0
図書資料費	57,100	57,100	0	0	0	0
保守料	423,698	423,698	0	0	0	0
リース料	2,782,428	2,782,428	0	0	0	0
支払報酬	2,112,000	2,112,000	0	0	0	0
租税公課	5,400	5,400	0	0	0	0
消耗什器備品費	122,916	122,916	0	0	0	0
雑費	1,117,882	1,117,882	0	0	0	0
減価償却費	1,099,519	1,099,519	0	0	0	0
ソフトウェア減価償却額	234,980	234,980	0	0	0	0
什器備品減価償却額	864,539	864,539	0	0	0	0
経常費用計	328,938,824	96,542,412	120,897,069	3,759,725	100,673,431	7,066,187
評価損益等調整前当期経常増減額	33,831,395	38,819,912	0	△ 2,524,231	△ 2,464,286	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	33,831,395	38,819,912	0	△ 2,524,231	△ 2,464,286	0
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	33,831,395	38,819,912	0	△ 2,524,231	△ 2,464,286	0
税引前当期一般正味財産増減額	33,831,395	38,819,912	0	△ 2,524,231	△ 2,464,286	0
法人税・住民税及び事業税	219,800	219,800	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	33,611,595	38,600,112	0	△ 2,524,231	△ 2,464,286	0
一般正味財産期首残高	596,612,767	618,388,264	77,156,262	11,380,327	△ 110,312,086	0
一般正味財産期末残高	630,224,362	656,988,376	77,156,262	8,856,096	△ 112,776,372	0
II 指定正味財産増減の部						
受取補助金等	7,452,218	1,122,218	0	0	0	6,330,000
受取助成金	7,452,218	1,122,218	0	0	0	6,330,000
助成金	7,452,218	1,122,218	0	0	0	6,330,000
受取寄付金	199,987,906	0	100,669,231	1,110,000	98,208,675	0
指定寄付金	199,987,906	0	100,669,231	1,110,000	98,208,675	0
三重ファミリールーム指定寄付金	1,110,000	0	0	1,110,000	0	0
施設運営指定寄付金	100,669,231	0	100,669,231	0	0	0
奨学金指定寄付金	98,208,675	0	0	0	98,208,675	0
特定資産評価損益	△ 4,634,187	△ 4,634,187	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 226,243,337	△ 1,713,218	△ 118,145,257	△ 1,110,000	△ 98,208,675	△ 7,066,187
指定寄付金	△ 218,135,699	△ 591,000	△ 118,145,257	△ 1,110,000	△ 98,208,675	△ 80,767
受取助成金等	△ 8,107,638	△ 1,122,218	0	0	0	△ 6,985,420
当期指定正味財産増減額	△ 14,169,026	4,043,187	△ 17,476,026	0	0	△ 736,187
指定正味財産期首残高	2,025,886,054	118,496,673	1,673,764,322	18,548,842	212,089,255	2,986,962
指定正味財産期末残高	2,011,717,028	122,539,860	1,656,288,296	18,548,842	212,089,255	2,250,775
III 正味財産期末残高	2,641,941,390	779,528,236	1,733,444,558	27,404,938	99,312,883	2,250,775



2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)の事業概況

2022年度の事業概況



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時、高額な小児がんの治療費のほとんどは自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じている状況に変わりはありません。当事業は、経済的な援助を主軸にしつつ、現在では、闘病中のご家族が当会や病院のソーシャルワーカー、さまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。当事業の対象者、対象事項等は以下の通りです。

対 象 者 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- 1) 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」を引いた額が400万円以下の場合
- 2) 自営業者：前年の確定申告書Bの「課税される所得金額（26）」（専従者がいる場合は「課税される所得金額（26）」に「専従者給与（控除）額の合計額（50）」及び「青色申告特別控除額（51）」を加算した金額）が400万円以下の場合

援助対象事項 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合
移植の実施／転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない場合／
特殊治療が必要
- ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150Km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

援助対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

援助の決定 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

2022年度	
決定実績	163件
援助決定総額 (1件当たり平均)	¥14,902,850円 (91,429円/件)

本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のカンパ」、有限会社吉半からの寄付をいただきました。

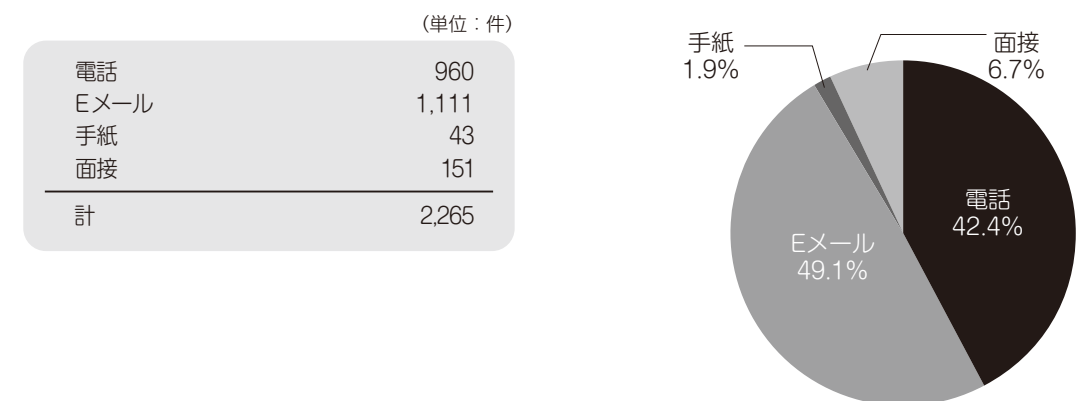
2 相談事業及び関連事業

(1) 小児がん相談事業

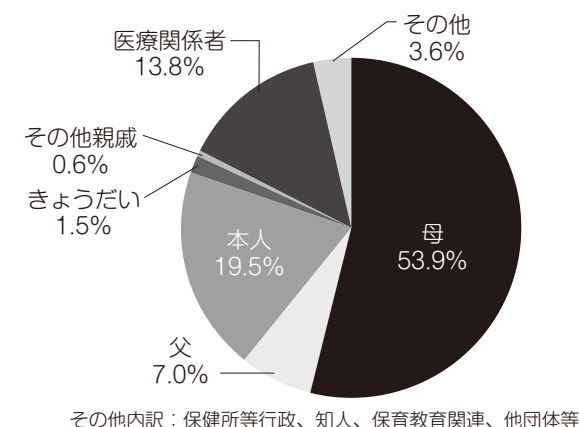
小児がん患児・家族は、数ヵ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来50年以上にわたり相談支援を行っています。2022年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計4名体制で相談に応じました。電話やメールでのご相談の他、新型コロナウイルスの影響を受けていた面接でのご相談も徐々に再開してまいりました。相談内容としては、療養生活や経済的な不安、亡くされたご家族のグリーフを含めたご相談がみられました。治療後の晩期合併症、長期フォローアップ、高校生の教育、自立や就労についてのご相談も変わらずありました。（詳細は下記をご参照ください）

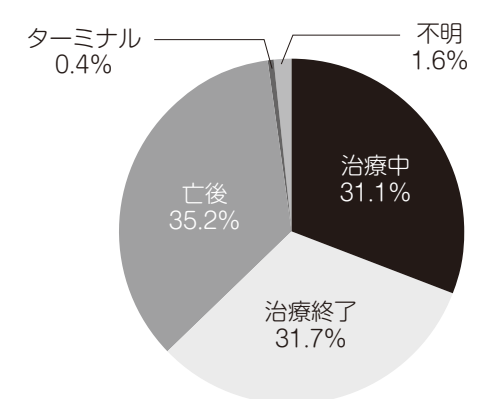
1. 相談方法



2. 相談者属性

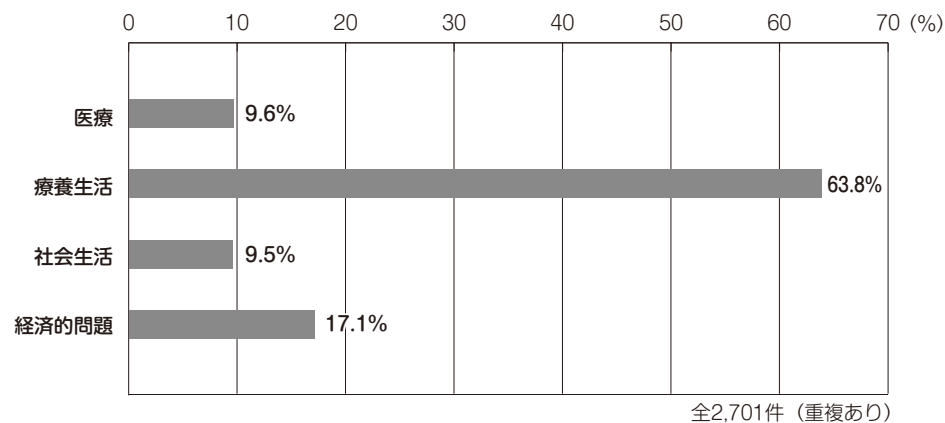


3. 相談時期





4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：心理社会的、治療、晚期合併症、長期フォローアップ、医療者との関係、セカンドオピニオン等

療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、家族・きょうだいについて、宿泊等

社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等

経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

(2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015年8月より、「小児がん こどもでんわ相談室」（フリーダイヤル：0120-307-164）を開設しました。平日10時から17時に小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーがお応えしています。「小児がん こどもでんわ相談室」の周知のために、（株）スタイリングライフホールディングスと当会が受賞した第3回（2017年度）「企業ボランティア・アワード」（東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センター主催）の奨励金によって作成したチラシやカードを小児がん拠点病院、小児がん診療病院、保健所等に配置していただいています。また本事業の推進のため株式会社星企画様よりご寄付をいただきました。

(3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

■個別相談会

年月日	内 容	相談医	会 場
2022年9月27日	小児がん全般（グリーフなど）	細谷 亮太 聖路加国際病院 小児科	東京（本部）
2022年10月26日	整形外科	川井 章 国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター	東京（本部）
2022年12月13日	小児がん全般 （患児・きょうだいの心の悩みなど）	小澤 美和 聖路加国際病院 小児科	東京（本部）
2023年3月14日	小児科	前田 美穂 日本医科大学付属病院 名誉教授	東京（本部）

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス亀戸（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年7回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、祖父母の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かった家族、15歳～19歳のお子さまを亡くされたご家族というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカー司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。2022年度も新型コロナウイルスの緊急事態宣言時及び高警戒レベル時は交流会を中止し、開催時は感染症対策を講じた会場設営をおこない、実施いたしました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。

2022年度は申込者がいなかったため、開催できませんでした。

〈サポートグループの同窓会〉

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後頃に同窓会と称した集まりを持っています。

2020年度の秋のグループの同窓会を2022年6月29日に3名の参加で浅草橋事務所にて開催しました。また2021年度の秋のグループの同窓会を2022年7月27日に4名の参加でオンラインにて開催いたしました。

(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

2022年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、11月19日（土）オンラインにて開催し、3団体5名が参加しました。今年も小児がん経験者の会のリーダーだけではなく、小児がん経験者で会のメンバーとして活動したい方、これから会を立ち上げたい方にもご参加いただき、コロナ禍での活動について各会での工夫や苦労等を分かち合う時間となりました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2022年度は2団体に計40,000円の活動費の支援を行いました。また小児がん経験者の企画（プロジェクト）に対する助成金制度として、シェイクハズ！に110,000円、Heart t♡Heartに約36,000円の支援を行いました。



③スマートムンストーンキャンプ

スマートムンストーンキャンプ（SMS）は告知をされて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。「病気について説明を受けている子どもたちが多数派になるまで見守る」という初期の目的は達成されましたが、これからもこのキャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くするため、そして新しい仲間を迎えるために、これまでのスマートムンストーンキャンプを礎として2011年より小児がん経験者が主体となって運営するキャンプを開催することになり、2012年度からは公益財団法人がんの子どもを守る会の事業として、ボランティアを中心とした実行運営グループが企画運営をしながら、新たなスタートを切っています。2022年度は3年ぶりに現地でキャンプを行う予定で準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のためやむを得ず現地開催を見送り、代替イベントとして12月17日にペアレンツハウスデイキャンプを開催いたしました。プログラムは、企画ボランティアの方を中心とした工作やゲームなどを行い、久しぶりの対面による交流で盛り上がりました。夜はオープントップバスでスカイツリーやけやき坂のクリスマス風景、レインボーブリッジなど東京の夜景を楽しみました。今年度は、小学3年生から社会人までの小児がん経験者5名、一般ボランティア1名、企画ボランティア9名、ボランティアリーダー（小児がん経験者）6名、スタッフ・事務局8名の計29名が参加しました。

協賛：公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

(6) 小児がんピアサポーター研修

小児がん患者・家族にとって、同じ問題に直面している仲間（ピア）に寄り添い、ともに考え、支援（サポート）するピアサポーターの存在は、大きな心の支えとなります。一方、同じ経験をしたからこそ同調しすぎてしまうのではないかと、どこまで相談に乗ってもいいのだろうか、という不安の声も聞かれます。そこで小児がん経験者・ご家族（親／きょうだい）20名の方を対象に、2022年10月～2023年2月に月1回約2時間、オンラインにてピアサポーター研修を開催し、全5回の研修参加と各研修受講後の課題提出をもって修了証を発行いたしました。

(7) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での開催を見送り、9月11日（日）Zoomを用いたオンラインによる形式で実施し、26団体39名の方に参加いただきました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動の制限を余儀なくされていることを鑑み例年の支援金とは別に特別支援金を設け、合計29団体に986,066円の活動費の支援を行いました。

(8) きょうだいの支援

①「富士山にアタック!! 2022」「てんとうむし」コラボレーション企画ペアレンツハウスデイキャンプ

小児がんの子どもへのきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より毎日新聞社の支援を受け、小児がん患者のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。22回目となる2022年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で富士山でのキャンプは中止となりました。

キャンプ代替イベントとして今年は貸切のペアレンツハウス亀戸にて感染症対策を講じたうえで、12月3日にデイキャンプを開催いたしました。参加者11名とスタッフ4名、事務局3名の総勢18名でのイベントとなりました。レクリエーションやサンタクロースも登場したクリスマスパーティー、オープントップバスでの貸切ナイトバスツアーを皆で楽しみました。久しぶりにきょうだい同士が会うことができ、改めて会える喜びを感じた1日となり、来年は富士山での再会を約束し、解散となりました。本イベントは、ご協賛社はじめ、他多数の関係者の協力により無事終えることができました。心より感謝申し上げます。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!! 参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会と親睦会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どもへのきょうだいたちにより「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ（天道虫）が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子どもへのきょうだい同士が、こころにとめていた想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感を持つ場として、6月2日に4名の参加者とともに新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンラインにて交流会、10月2日に特別企画として「みんなで高尾山に登ろう!」には6家族17名、12月4日にはキャンプ代替イベントとコラボして開催いたしました。

アイスブレイクやレクリエーションなどを通じて、きょうだい同士がスムーズに繋がることのできる機会となり、患者のことや日頃感じていることも話題に上り、きょうだいにとって大切な時間となりました。

③Sib-Ring Time

2022年5月に毎月第4木曜日17時30分～約1時間、小児がんの子どもへのきょうだいなら誰でも参加でき、事前申込不要、途中参加・途中退出自由のオンライン交流会をスタートしました。

Sib-Ring Timeは、親御さんからのきょうだいたちが定期的集える場があればいいなというお声を受け、きょうだいを意味するsiblingsと輪という意味のringを合わせてSib-Ringと名付け、スタートしました。

第1回目から毎回複数の参加者とともに、折り紙や工作、ゲーム、ソーラン節を踊ったりと毎回バラエティに富んだ内容で11回無事に開催することができました。来年度も引き続き毎月第4木曜日に開催いたします。



(9)「小児がん経験者の長期フォローアップ受診促進のための啓発活動」事業

一般社団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）の助成による「小児がん経験者の長期フォローアップ受診促進のための啓発活動」事業の最終年度になりました。本事業は、小児がん医療の進歩とともに、小児がん経験者の長期フォローアップ、移行期医療、健康管理などについてのご相談が増えるなかで、特に治療サマリーを持たず、主治医との連絡が途絶えてしまっているフォローアップロスの小児がん経験者の存在について対応する必要性を強く感じて開始した事業です。今年度は2021年度に開設した「みんなの健康サイト」の周知に努めるとともに、患者・家族から「フォローアップをどこで受診してよいか分からない」という相談も多く寄せられたため、小児がん診療施設及び成人がん診療施設に対し長期フォローアップ外来の調査を実施し、小児・AYA世代がん患者の健康管理に必要な情報をまとめた『健康管理応援ガイド』に一覧として掲載し頒布しました。本年度で助成は終了いたしますが、本事業は今後も継続して取り組んでゆく予定です。

尚、本事業は下表有識者等の方々で構成されたアドバイザリーボードの協力を得ています。

〈アドバイザリーボード〉

氏名（敬称略：順不同）	所 属
松本 公一	国立成育医療研究センター小児がんセンター
力石 健	宮城県立こども病院血液腫瘍科
宮地 充	京都府立医科大学附属病院小児科
長谷川大輔	聖路加国際病院小児科
石田也寸志	元 JCCG 長期フォローアップ委員会委員長 / 愛媛県立中央病院小児医療センター
大園 秀一	JCCG 長期フォローアップ委員会委員長 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療検討委員会委員
前田 美穂	日本医科大学付属病院小児科 / 日本歯科大学
舛本 大輔	小児がん経験者の会 WISH 代表、がんの子どもを守る理事
菱ヶ江恵子	小児がん経験者の会 FT 及び QOL+メンバー

(10) 車椅子・ウィッグ貸し出し事業

当会では、患児・ご家族、企業からご寄付いただいた車椅子及びウィッグを管理し、治療中や治療後に一時的に車椅子、ウィッグを必要とされる患児へ無料での貸し出しをおこなっております。現在、車椅子は小児用が6台、ふつうサイズが1台、ウィッグは小児用とおとな用がそれぞれ6個あります。

そのなかで2022年度は、車椅子が6件、ウィッグは5件の貸し出しがありました。特にウィッグはコロナ禍において製作が退院までに間に合わなかったケースや、一時退院のために必要なケースが多く、車椅子も外出のためや通学のために必要なケースが見受けられました。ご利用される皆さまには、車椅子もウィッグもご寄付で頂戴した大事な資源であることをご理解のうえ、丁寧に大切に使用していただいております。

3 治療研究事業

(1) 治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるより良い療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、23件（助成総額7,395,000円）を助成いたしました。

〈2022年度 治療研究助成一覧〉

（助成期間：2022年10月1日～2023年9月30日） * 所属は決定時点

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
浅野 陽平	金沢大学附属病院	悪性骨腫瘍に対する液体窒素を用いた腫瘍処理骨再建における処理骨周囲膜組織の機能解明と新たな再建法の開発
石田 穰治	岡山大学 / 岡山大学病院	小児脳腫瘍診断困難例に対するマルチオミクス解析を駆使した precision medicine の確立
石原 泰子	公益財団法人大原記念 倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	化学療法を受ける小児悪性腫瘍患者における口腔粘膜炎に関する実態評価：0.2%レバミピド含嗽液の使用に着目した記述疫学研究
井上 健	大阪市民病院機構 大阪市立 総合医療センター	小児腫瘍のグルーブスタディに有用な病理組織分類アトラス・資料の適時リニューアルおよび小児腫瘍病理診断の教育研修活動
梅田 雄嗣	京都大学大学院 医学研究科	ダウン症候群における胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明
大木健太郎	国立成育医療研究 センター研究所	小児造血器腫瘍におけるFISH法による融合遺伝子診断法の開発
大杉 夕子	兵庫医科大学病院	思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究
大町 太一	関西医科大学 医学部	小児白血病における新規融合遺伝子の同定および定量評価系の確立
兼田加珠子	大阪大学大学院理学研究科附属 フォアフロント研究センター	核医学治療薬による低侵襲がん治療の検討
笹川 覚	野崎特洲会病院 付属研究所	フェロトーシス経路を標的とした滑膜肉腫の新規分子標的治療法の探索
鈴木 孝二	福井大学医学部附属病院	小児急性リンパ性白血病維持療法中の食事制限と感染症に関する他施設共同観察研究
門廻 充侍	東北大学 災害科学国際研究所	学童期経験者を対象としたPPIを見据えた人材育成に関する基礎検討
玉井 望雅	山梨大学大学院 総合研究部医学域	急性リンパ球性白血病におけるグルコシルコイド抵抗性関連遺伝子の in vivo CRISPR screening と single cell RNA-seq による遺伝子多重損傷解析
田村 彰広	神戸大学大学院 医学系研究科	抗SIRPα抗体による貧食機構を応用した神経芽腫の新規治療開発
中田 聡	群馬大学医学部附属病院	SLFN11で層別化した髄芽腫の新規治療戦略
日高 もえ	東京大学医学部附属病院	小児患者の妊孕性温存を志向した卵巣組織凍結保存の実行可能性の検証と最適化
廣瀬 勝俊	大阪大学大学院 歯学研究科	難治性脈管異常に対するシロリムス薬承認を見据えた治療エビデンスの確立
樋渡 光輝	帝京大学医学部 小児科学教室	難治性神経芽腫に見出された新規ALK融合遺伝子の発がんメカニズム解析
深野 玲司	山口大学大学院 医学系研究科	ALK陽性未分化大細胞リンパ腫の腫瘍細胞播種に関わるメカニズムの解明
細谷 要介	聖路加国際病院	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症とQOLの生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
松川 幸弘	滋賀医科大学	先天性代謝性異常症に合併する血球貧食性リンパ組織球症（HLH）の後方視的調査研究
吉田 秀樹	京都府立医科大学 大学院医学研究科	小児急性骨髄性白血病（AML）及び骨髄増殖性疾患（MPN）におけるALK/ROS1融合遺伝子の臨床的意義の検討
若松 学	名古屋大学大学院 医学系研究科	単一細胞解析による若年性骨髄単球性白血病の不均一性と新規治療薬への応用



4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3か所あります。小児がんなど小児難病の患児・家族に寄り添う総合支援センターとして運営しております。これまで宿泊部門では、3棟で延べ150,546名の方にご利用いただきました。尚、運営に関する費用については、アフラック並びにアフラックの社員及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援も頂きながら運営を継続しています。

2022年は、街中が制限の緩和や解除で少しずつ日常生活に戻るなか、子ども達に楽しく過ごしてもらうためのハウス内の制限緩和と解除、子ども達を守るために必要な制限とルールの間で悩んだ1年でした。また、休止していましたボランティア活動やセミナールームの利用を再開しました。

■宿泊利用状況

延べ宿泊利用家族数（2022年4月1日～2023年3月31日）※（）は前年度
 亀戸（10室） / 41家族（12家族）
 浅草橋（14室） / 231家族（176家族）
 大阪（12室） / 157家族（148家族）
 計 429家族（336家族）



▲ 浅草橋



▲ 亀戸



▲ 大阪

(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

あかつきハウスは、1995年から東京都中央区の区立住宅「築地あかつき住宅」の一室をお借りして、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設として管理・運営をしています。利用料は1泊2,000円（寝具等の維持管理費含む）です。2022年4月1日より2023年3月31日までの間、延べ13家族が利用されました。



②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2022年4月1日より2023年3月31日までの間、延べ9家族20回の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信し続けてきました。国や地方自治体が運営する様々な協議会に当会会員が患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

■小児・AYA世代がん対策政策提言のためのワーキンググループ

2023年度から始まる第4期がん対策推進基本計画策定に向け、広く全国の小児がん患者・家族からの要望をまとめる目的で、小児がん患児の親20名、小児がん経験者15名の合計35名の有志から成る小児・AYA世代がん対策政策提言のためのワーキンググループを組織し、当会が事務局を担って活動をしました。活動最終年度である2022年度は厚生労働省、文部科学省に対して要望書（※）を提出すると共に、各地方自治体に提出する予定の要望書作成のためのグループ討議を行いました。

※ 2022年5月24日「第4期がん対策推進基本計画策定に向けた小児がん患者・家族からの要望書」提出（厚生労働省／文部科学省）



■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザリーボード
北海道	高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制検討会議
関東	がん対策推進協議会（栃木県）
	がん対策推進協議会（東京都）
	小児・AYA世代がん診療連携協議会（東京都）
新潟	慢性疾病児童等地域支援協議会（県、新潟市）
	新潟県がん対策推進協議会
富山	がん対策推進協議会
福井	がん委員会
	がん治療相談支援部会
	県難病患者団体連絡協議会
静岡	慢性疾病児童等地域支援協議会（県、静岡市）
関西	小児・AYA世代のがん対策部会（大阪府）
岡山	がん対策推進協議会
愛媛	がん対策推進協議会
	がん相談支援推進協議会
	慢性疾病児童等地域支援協議会
高知	がん対策推進協議会
九州北	がん対策推進協議会（福岡県）
九州西	がん教育普及推進協議会（長崎県）
沖縄	がん対策推進協議会
	がん診療連携協議会 小児・AYA部会

6 支部活動

当会には全国に21の支部があります（2023年3月31日現在）。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
7月	新潟	病院がプラネタリウム（新潟県立がんセンター新潟病院） ユーチューブ同時配信
	福井	ピアサポートカフェ（ハピリン福井市総合ボランティアセンター）
		福井大学病院小児科病棟のぞみお話タイム夏祭り （共催：認定 NPO 法人日本クリニクラウン協会） ウェブ開催
	関西	ピアサポート 2022 ウェブ開催
	九州北	レモネードスタンド in ふくおか 2022（JR 博多駅前）
	宮崎	講演会「小児がんの歴史と将来展望」（宮崎大学清武キャンパス）
9月	福井	のぞみ福井小児がん ONLINE セミナー「知ってほしい!!小児がん患者・家族の思い!!」 （共催：福井本丸ライオンズクラブ） ウェブ開催
	岡山	交流会「社会人になる子どもの不安について」 ウェブ開催
	愛媛	市民公開講座「小児がんをもっともっと知ってもらおう～一刻も早く、よりよいがんの治療薬を子どもたちへ!～」（共催：愛媛大学大学院医学系研究科小児科学講座） （いよてつ高島屋）
	九州北	第5回小児がんのこどもの教育を考える講演会（主催：九州大学病院） ウェブ開催
11月	九州北	第52回講演・交流会「もっと知ってほしい:小児がんの晩期合併症と就学・就業のこと」 「小児がん経験者として生きていく～治療から現在に至るまでの経験をもとに～」 （福岡県中小企業振興センター）
12月	福島	院内クリスマス会（福島県立医科大学附属病院）
	福井	福井大学病院小児科病棟のぞみお話タイムクリスマス会 （共催：認定 NPO 法人日本クリニクラウン協会） ウェブ開催
1月	九州北	九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会市民公開講座 「みんなで考えよう未来ある子どもたちのために」 ウェブ開催
3月	関東	講演会「小児がん経験者のより良い未来のために、知っておきたい歯の話」 ウェブ開催
	福井	ピアサポートカフェ（鯖江 NPO センター）
	静岡	小児慢性特定疾病自立支援事業 静岡県東部保健所合同講演会 「こどもから大人に向けた準備～自分の病気を知ることの大切さ～」 ウェブ開催
	関西	近畿小児血液・がん研究会公開シンポジウム 「患者のこころを知りたい」（大阪市立総合医療センター）

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に全国21の支部幹事を対象に年2回開催しております。2022年度は6月と10月の2回開催しました。また、1月には交流することをメインにした支部交流会を開催し、今後の活動についての意見交換が行われました。



7 広報・啓発・募金活動 等

第27回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2022年11月25日（金）～11月27日（日）の会期で第64回日本小児血液・がん学会学術集会（越永従道会長／日本大学医学部外科学系小児外科分野主任教授）、第20日本小児がん看護学会学術集会（上別府圭子会長／国際医療福祉大学大学院家族看護学領域教授）、第27回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムが虎ノ門ヒルズフォーラム（東京都）にて開催されました。

後援：厚生労働省、東京都、公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■三団体合同公開シンポジウム

「小児がんを経験してーそれぞれの思いからー」

- ・日 時：2022年11月26日（土）14：15～16：30
- ・座 長：越永 従道先生（第64回日本小児血液・がん学会学術集会会長）
上別府 圭子先生（第20回日本小児がん看護学会学術集会会長）
- ・進 行 役：舛本 大輔氏（小児がん経験者）
- ・シンポジスト：
 - 堀 雅弥氏（小児がん経験者）高校教育の視点から～過去の経験と今、これから～
 - 込山 雅人氏（小児がん経験者）就労の視点から
 - 石田 美香氏（小児がん経験者）晩期合併症、フォローアップの視点から
 - 龍田 義昭氏（小児がん経験者）結婚、妊孕性の視点から
- ・参 加 者：約200名

■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1988年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、全国から寄せられた38点を展示しました。

- ・期 間：2022年11月25日（金）～11月26日（土）
- ・来場者：約750人
 - 助 成：公益財団法人 JKA によるオートレース補助事業
 - 協 賛：公益財団法人原田積善会



※例年学会の際に開催している「チャリティウォーク」はスケジュールの都合で中止となりました。

外部講演

小児・AYAがんや患者家族への理解を深めていただく場として、下記の講演等の機会をいただきました。

年 月	内 容
2022 年 7 月	東北ブロック小児がん相談支援部会 「小児・AYA がん患者の就労支援について」
2022 年 11 月	神戸大学医学部保健学科 「小児がん患者家族として当事者の体験を語る」
2022 年 12 月	東京都立日比谷高等学校 「小児がんを中心としたがん教育」
2023 年 3 月	がんと暮らしの全国フォーラム 「小児がん患者家族の社会的苦痛について」

東京マラソンチャリティ寄付先団体としての活動

新型コロナウイルス感染拡大が懸念されたなか、今年度は以下の2つのマラソンが開催され、当会も寄付先団体として大会当日（事前の東京マラソンEXPO2022も含む）のブース運営等で当会の周知広報も含む活動を行いました。2つの大会を通じて計9名のチャリティランナーが参加され、寄付金も頂戴しております。

これらの寄付金は療養援助事業に活用させていただきました。

- ・東京レガシーハーフマラソン 2022（2022 年 10 月 16 日）
- ・東京マラソン 2023（2023 年 3 月 5 日）

2023年度も引き続き東京マラソン財団チャリティ RUN with HEARTとして活動を継続します。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

- ※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ3,567個、ストラップ950個、スワロフスキー付ピンバッジ150個、ネックレス250個のご支援をいただきました。
- （ゴールドリボンの製作費は清水建設株式会社に、バッジの組み立てにはモルガンスタンレーとサノフィ株式会社のご支援とご協力をいただきました）。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ



チャリティバッグの頒布

小児がん支援のシンボルマークであるゴールドリボンのイラストをプリントしたチャリティーバッグの頒布を数量限定で開始いたしました。1,000円以上の募金をいただいた方に頒布しました。



常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で48か所に設置のご協力をいただいております。



▲ 常設募金箱



▲ 支援自動販売機

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国31か所に設置していただいております。

機関紙「のぞみ」の発行

当会創立時より、小児がんに関する情報提供及び当会活動の紹介・報告を目的に「のぞみ」を発行しています。本年は、下記の4号を発行いたしました。

号	発行月	内 容
第209号	2022年4月25日	- 事業計画、収支予算、年間スケジュール - WEB講演会「小児がんのきょうだいたち」 - ペアレンツハウスからのたより 他
第210号	2022年7月25日	- 年次大会・分科会報告 - 小児がん対策への取り組み - 講演「病気療養中の子どもたちに対する教育の現状」 「病室と教室を繋ぐ」
第211号	2022年10月11日	- 年次大会講演「小児がん対策とがん対策推進基本計画」 「小児がんの現在と未来」 - 小児・AYA世代がん対策政策提言のワーキンググループ報告、 パネルディスカッション
第212号	2023年2月1日	- 第27回公開シンポジウム報告 - ペアレンツハウスデイキャンプ、特別企画「みんなで高尾山に登ろう！」報告 - 第25回小児がん親の会連絡会、小児がん経験者リーダーの集い 他

小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：International Society of Paediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより広がられています。当会では、1月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってほしいとの想いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。



■啓発活動など

新型コロナウイルスの感染症対策を十分に講じながら商業施設や病院、大学、行政機関などにご協力をいただき啓発チラシ設置や、ポスターの掲示、ゴールドリボンツリーなどを飾りました。

〈主な協力機関〉（順不同・敬称略）

行政・公共機関等

青森県、八戸市、秋田県、宮城県、福島県、栃木県、群馬県、茨城県、神栖市、東京都、文京区、江戸川保健所、山梨県、長泉町社会福祉協議会、射水市中央図書館、富山県、福井県、大野公民館、石川県、小浜市、敦賀市、岐阜県、三重県、奈良県、岡山県、岡山市立中央図書館、島根県、香川県、徳島県、オーテピア高知図書館、福岡県、福岡市、直方市、宗像市民図書館、嘉穂図書館、山田図書館、田川市、ウェルとばた、宗像・遠賀保健福祉環境事務所、佐賀県、熊本市ウェルパル熊本、大分県・市保健所、浦添市役所、沖縄市役所

病院等医療機関

北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、札幌北楡病院、市立釧路総合病院、弘前大学病院医学部附属病院、山形大学病院、東北大学病院、宮城県立こども病院、福島県立医科大学附属病院、がんセンター新潟病院、埼玉県立小児医療センター、東京医科歯科大学、東京都立小児総合医療センター、東京大学医学部附属病院、東京慈恵会医科大学、順天堂大学、国立成育医療研究センター、聖路加国際病院、東海大学附属病院、千葉県こども病院、浜松医科大学、名古屋大学、名古屋市立大学病院、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院、福井赤十字病院、福井県立病院、本馬医院、京都府立医科大学附属病院、京都市立病院、大阪母子医療センター、大阪市立総合医療センター、大阪医科薬科大学病院、岡山大学病院、岡山医療センター、岡山日本赤十字病院、岡山済生会病院、倉敷中央病院、川崎医科大学、川崎医科大学総合医療センター、津山中央病院、高梁中央病院、金田病院、岡山労災病院、岡山市民病院、倉敷成人病センター、岡山県難病相談支援センター、島根大学医学部、広島大学病院、愛媛大学医学部附属病院、佐賀県健康づくり財団メディカルセンター、大分大学医学部附属病院、宮崎大学病院、九州がんセンター、九州大学病院、産業医科大学病院、琉球大学附属病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、沖縄県立看護大学



教育機関等

仁愛女子短期大学、敦賀気比高等学校 IAC、若狭高等学校 JCR 部、旭川荘厚生専門学院、矢掛町立三谷小学校・美川小学校、岡山市立豊保育園・豊幼稚園・豊小学校・西大寺中学校、岡山学芸館高等学校、IPU 環太平洋大学保健室、山口県立大学、とんの幼稚園、沖縄大学、沖縄女子短期大学、沖縄県立鏡が丘特別支援学校

企業・商業施設等

アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店、日本対がん協会、清水建設株式会社、武州製菓株式会社 / 武州製菓ユニオン、モルガン・スタンレー、株式会社 Fast Fitness Japan、豊川稲荷、鉄板焼きみかづき、サントムーン柿田川、みやの森カフェ、る・ふつくらん、株式会社プレステージインターナショナル、カフェしえる、福井県協ビル、鯖江市民活動センター、アピタ福井大和田店、福井本丸ライオンズクラブ、ふくいこどもホスピス、みいつカフェ、小浜ショッピングセンター、カフェ縞、ECO DOG、道の駅若狭おばま、MEGA ドン・キホーテ UNY 敦賀店、焼肉の壺、兵助株式会社、和宗総本山四天王寺、神戸フィルハーモニック、岡山商工会議所西大寺支所、株式会社エディオン広島本店、pizzeriaMaruburin、ケーキ屋ミネット、ボンジュールネ、オーテピア高知図書館、イオンモールライカム、ワタナベフォトスタジオ、日本郵便株式会社九州支社、小野薬品工業株式会社、認定 NPO 法人子ども医療支援わらびの会、放課後等デイサービスオリーブ

メディア掲載

NHK 福井・松山・福岡、新潟日報社、福井新聞、嶺南ケーブルテレビネットワーク、山陽新聞社、西日本新聞社、FBS 福岡放送

イベント

LIVE EMPOWER CHILDREN2023（主催：一般社団法人 Empower Children）
小児がん WEB 交流フェスタ 2023（主催：国立成育医療研究センター小児がんセンター）

* その他、全国多数の商業施設等で募金・啓発活動にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細は facebook でもご紹介しております。
<https://www.facebook.com/mamorukai1968/>

小児がん啓発月間(Childhood Cancer Awareness Month)の活動～Global Gold September Campaignへの協力(継続)

毎年 9 月に世界中の小児がん団体が「小児がん啓発月間 / Childhood Cancer Awareness Month」として、小児がんの理解を促し支援を求めることを目的に様々な活動を行っています。2022 年度も日本小児がん研究グループ (JCCG) の呼びかけに応じて、ゴールドのライトアップで小児がんへの理解・支援を呼びかける世界的な啓発イベント (Global Gold September Campaign : GGSC) について、北海道支部によるさっぽろテレビ塔、九州西支部による稲佐山山頂電波塔と佐賀メディカルセンタービルのライトアップを支援しました。またハウスでの飾りつけも行いゴールドセプテンバーの活動に協力しました。

8 国際活動

国際小児がんの会 (CCI/Childhood Cancer International) 年次総会への参加

当会は国際活動として長年に亘り、国際小児がん学会 (SIOP/International Society of Paediatric Oncology) と同時期に開催される国際小児がんの会 (CCI) 年次総会への参加を公募で募る派遣事業を、

小児がん患児の親及び小児がん経験者を対象に実施してきました。しかし、2019 年のリヨン大会以後の 2 年間は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大のため、現地開催が行われませんでした。今年度は 2022 年 9 月 28 日～10 月 1 日にスペインのバルセロナで 3 年ぶりに現地開催が実現しました。残念ながら、欧米で諸規制の緩和が続く一方で、日本では第 7 波の感染拡大や、海外渡航に関連した様々な制限もあり、派遣希望者はなく、本年度は理事長のみが代表として参加しました。なお、CCI の加盟団体は、2022 年 10 月現在 94 ヶ国 182 団体となり、活発な活動が続いています。

PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

開発途上国等の国際小児がんの会 (CCI/Childhood Cancer International) 年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に 600 ユーロの寄付を行いました。

9 奨学金事業 (アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度)

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014 年度より奨学金の給付を開始しました。2015 年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店 (アフラック全国アソシエイツ会) の数多くの方々からご支援を受け運営しています

対 象 者	18 歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。 - 給付開始時に高等学校等に在学中の方。 - 申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。
対象となる教育機関	「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般課程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」
給 付 金 額	- 月額 20,000 円 - 対象となる教育機関で正規の最短修業期間。 - 奨学金の返還は原則不要。
本 年 度 実 績	小児がん経験者：助成件数 72 件 (高 1 14 件、高 2 25 件、高 3 以上 33 件) が ん 遺 児：助成件数 325 件 (高 1 70 件、高 2 110 件、高 3 以上 145 件) 合 計：助成件数 397 件 (高 1 84 件、高 2 135 件、高 3 以上 178 件) 給 付 金 額：94,480,000 円

10 ボランティアコーディネート・研修会

(1) 遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」は、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992 年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児病棟にボランティアを週 1 回派遣し、入院患児を対象に遊びの支援活動をおこなっています。しかしながら本年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため院内ボランティアの受入が全面中止となり、「たんぽぽ」も病棟で活動することができませんでした。

協力 (物品提供)：スタイリングライフ グループ



(2) ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所（東京）と大阪事務所で延べ164人（うちペアレンツハウスボランティアとして87名）からボランティア協力をいただきました。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動を制限せざるを得ない状況となってしまいました。また当会にてボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修を予定しておりましたが、同じく新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止と致しました。

11 調査研究協力

■調査研究委託

2022年度の当会への調査研究に関連する協力の依頼は1件あり、下記1件について調査研究委員長の承認が得られ、以下の通り関係者へ協力を呼びかけました。

研究名称	協力内容
「小児慢性疾患をもつ子どものヘルスリテラシー、レジリエンシー、サポート・セルフアドボカシーとQOLの関連アンケート調査」 厚生労働科研「小児慢性特定疾病病児等の健全育成のための自立支援事業の充実に資する研究」（檜垣班）との連動研究	対象者：慢性疾患をもつ13歳～21歳の患者本人、その保護者 方 法：インターネットアンケート調査

12 2022年度年次大会開催

2022年6月26日（日）に2022年度年次大会を「小児・AYA世代がん対策」をテーマに開催しました。本年度は新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら会場で開催し、定員である70名のご参加をいただきました。また、講演は後日オンデマンド配信をいたしました。

①講演

「小児がん対策とがん対策推進基本計画」

- ・厚生労働省健康局がん・疾病対策課

「小児がんの現在と未来」

- ・がん対策推進協議会委員 大賀 正一先生（一般社団法人日本小児血液・がん学会理事長）

②パネルディスカッション

- ・厚生労働省健康局がん・疾病対策課
- ・がん対策推進協議会委員 大賀 正一先生（一般社団法人日本小児血液・がん学会理事長）
小児・AYA世代がん対策政策提言のワーキンググループ（注）
- ・医療・福祉グループ 酒井 信夫氏
- ・教育グループ 栗山 宣夫氏
- ・仕事グループ 石田 美香氏

（注）小児がん患児の親及び小児がん経験者で組織されたグループ

13 クリスマスプレゼント

昨年に引き続きコロナ禍の中でも治療を頑張っている子どもたちが少しでも笑顔になれるようにと、全国の小児病棟等へのプレゼントについてAmazonのウィッシュリストも活用しながら、ご協力のお願いをホームページやブログでご案内させていただきました。個人の方や企業の方から、おもちゃ、文具、帽子やぬいぐるみ、カードゲーム、絵本など多岐に渡る品が届き、これらは当会の支部や小児がん親の会、小児がんの診療施設などを通じて全国50か所の約1,400人の小児病棟に入院中の子どもたちや療養中の子どもたちにお届けすることができました。

ご支援いただいた皆様

大原薬品工業株式会社、ニューエラジャパン合同会社、武州製薬株式会社／武州製薬ユニオン、ブランド・ロイヤルティ・ジャパン株式会社、スタイリングライフグループ、株式会社大和証券グループ本社、東京上野東ライオンズクラブ、エア・ウォーターメディカル株式会社、他、個人の方々からも多数のプレゼントをご支援いただきました。

14 物品・ボランティアのご協力（敬称略・順不同）

物品寄付

アフラック生命保険株式会社、アフラック保険サービス株式会社、アフラック青森県アソシエイツ会、アフラック秋田県アソシエイツ会、アフラック宮城県アソシエイツ会、アフラック近畿ブロックアソシエイツ会、アフラック広島総合支社、アフラック・ハートフル・サービス株式会社、第一生命保険株式会社、大和証券グループ、デニスジャパン株式会社、丸全商事株式会社、一般財団法人東京マラソン財団、NPO法人キープ・ママ・スマイリング、ワンビシアークイブス、有限会社裕和、株式会社シンシア、水戸好文ロータリークラブ、モルガン・スタンレー、株式会社新旭サービス、ナオカケル虹のプロジェクト、Kids2Japan、アステラス製薬株式会社、おあしす福祉会、かんぼ生命山形支店坂田郵便局、ファミケア株式会社、株式会社ハピネス、保険オフィスさとう、大阪府宅地建物取引業協会中央支部、公益財団法人パブリックソース財団、村林 栄子、森田 あゆみ、大久保 あさみ、伊東 悠花、松井 あさみ、高遠 勲、高遠 あい、菅原 さとみ、新井 睦季、新井 周代、中川、伊東 真梨子、小森 学、谷合 正子、三上 正美、中 弥生、小松 仁、佐々木 靖子、中島の友人有志一同、小林 千宏、坂口 明子、重 美夏、織田 喜一、高木 信隆、高野 弘美、篠塚 ことえ、福田 順子、三上 悦子、高遠 翼、松田 優子、岩佐 美紀、田島 幸美、大橋 孝次、五郎丸、あずま、原田 隆夫、海野 周美、姜 有希、保坂 裕美子

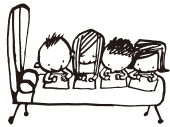
ご招待

アフラック生命保険株式会社、毎日新聞社、川畠成道音楽事務所、公益財団法人お金をまわそう基金

募金活動、他ボランティア活動

アフラック生命保険株式会社、第一生命保険株式会社、モルガン・スタンレー、小野薬品工業株式会社

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～



寄付・募金者一覧

(2022年4月1日～2023年3月31日)

寄付・募金者一覧



寄付者一覧

※敬称略

株式会社 CES.緑研究所 株式会社 CFP CLUB66 代表 斉藤 和巳 EMERALD OCEAN 代表 高橋 伸明 株式会社 Fast Fitness Japan FREECLOUD合同会社 株式会社 KOHATAホールディングス 株式会社 marron marron Office Magenta PH PARIS JAPON株式会社 Proclinical株式会社 RAJAPAKSHA KAUSHALYA 株式会社 ZEROPLUS 相川 勝 愛知製鋼株式会社 相原 大和 青木 千賀 赤井畑 美津子 赤城 剛 赤坂 佐代子 赤根 宏行 秋本 俊治 秋山 由里子 暁の星幼稚園 株式会社 アコーセラミック 朝岡 大輔 浅田 博司 浅見 美紀 足利ロータリークラブ アストラゼネカ株式会社 東 博行 東 裕也 足立 義一 我妻 たか子 アフラック 横浜支社 アフラック生命保険株式会社 社会公共活動推進室 アフラック全国アソシエイツ会 アフラック道央アソシエイツ会 アフラック東京総合アソシエイツ会 アフラック三重県アソシエイツ会 阿部 千佳子 アボットジャパン株式会社 天瀬 毅 アムンディ・ジャパン株式会社 荒井 秀美 新井 雅樹 荒尾ライオンズクラブ 荒川 綾子 荒川 佳枝 荒木 真悟 荒牧 圭 安藤 雅章 LEE EOL 飯島 佐和子 飯塚竜王ライオンズクラブFWT委員会 飯塚 敦夫 家原 知子	五百川 麻子 五十嵐 香織 池田 修子 池元 洋 伊佐 龍寿 石上 久美 石川 孝成 石川 仁 石川 幸雄 石原 節子 石原 貴泰 石原 直子 石村 和江 LeeJounku 泉 由幸 株式会社 慶大産業運輸 一瀬 すみ 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 市原 真 井手 愛 伊藤 晶子 伊藤 圭 伊藤 奈央 伊藤 春香 伊藤 尚子 伊藤 由美子 伊藤忠商事株式会社 稲垣 理恵 稲垣産業株式会社 犬伏 慎太郎 井上 彰子 井上 清美 井上 真理子 井上 良子 伊野波 盛俊 伊野波 盛郁 今井 淳之 今井 正 今井 達昌 医療法人 社団 爽真会 医療法人 吉田クリニック 岩壁 理恵 弁護士 岩上 公一 岩倉 良昭 岩崎 公子 岩沢 拓也 岩田 吉郎 岩谷産業株式会社 岩月 実 岩本 美穂 ウェスプ ベーター・絵理 上野 慎治 上間 愛美 植松 貴実子 内田 裕之 内田 道治 内田 幸恵	海のそばのカフェ bliss point 株式会社 梅原洋紙店 浦本 敬子 エーザイ株式会社 筑波研究所 AGCマイクロガラス株式会社 株式会社 Agent 江川 祥子 江戸 靖浩 エニタイムフィットネス国分中央店 榎本 武 大分大在ライオンズクラブ 大分中央ライオンズクラブ 大垣センチュリーロータリークラブ 大木 綱雄 大久保 俊樹 大久保 一恵 大蔵 隆彦 大阪ヴァイオレットライオンズクラブ 社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会 大崎 誠 大下 茂 大島 泰子 太田 卓秀 太田 浩史 有限会社 大瀧設備事務所 大竹 麻奈 大坪 伸彰 大西 紀子 大野城ライオンズクラブ 大場 幸夫 大原小児がん基金 大平 圭一郎 大政 満寿子 大森 豊寛 株式会社 オールグリーン 岡倉 慶子 株式会社 OKAZAKI 岡崎 昌世 岡部 美樹 篠田 菜々子 岡山 文彰 ジュテーム 坂戸 奥川 研二 奥田 春香 奥野 達也 奥野 はるな 小倉 邦彦 尾崎 幸 小澤 明弘 小田切 喜一 落合 章 落合 仁 小野 智久 おのうえこどもクリニック おの歯科医院 小野寺 宇蘭子 小野薬品工業株式会社	海田 由美子 花王株式会社 加賀美 久仁子 香川大学医学部付属病院 垣東 愛子 景山 高行 梶原 敦子 梶原 絵李 梶原 真澄 片山 麻子 勝浦 広基 勝瀬 求 勝俣 花菜 加藤 友和 加藤 仁義 加藤 廣久 加藤 正彦 加藤 元博 加藤 康子 加藤 佑弥 金山 直司 株式会社 カネカ 金子 武行 兼松株式会社 株式会社 エミシエア 鎌田 政之 神藏 栄市 亀井 加代子 鴨作 卓弥 川勝商事株式会社 川口 弘二 川崎 由子 河出 トシ 川端 文香 川原 敬 川村 哲也 木内 希 木口 麻美 菊地 真幸 岸田 恭二 岸田 徹 北九州地区連絡協議会 八幡三ヶ森郵便局 北中 サム 木谷 晃広 北原 義明 北村 佳子 キッコーマン株式会社 木下 成顕 木原 陽佑 キムジェファン&+81WIN 木村 美帆 きもべつ喜らめきの郷 キャノン株式会社 キャノンメディカルシステムズ株式会社 有限会社 キャピタル 九州大学病院 共立インシュアランス・ブローカーズ株式会社
---	--	---	---

協和キリン株式会社 切替 祥鷹 株式会社 草むしり 楠井 晶 葛西 一良 久保 香 久保 結花 久保 雄一 久保田 一男 窪田 貢 熊谷 恵利子 熊谷 則一 隈崎 哲也 熊本歯科衛生士専門学校 熊本第一ライオンズクラブ事務局 熊農平成レオクラブ 熊本平成ライオンズクラブ 会長 竹内 勝 組屋 雅仁 倉敷中央病院がん相談支援センター 倉田 知展 栗原 忍 栗山 宣夫 棚沢 静枝 久留米りんどうライオンズクラブ 暮部 勢子 株式会社 グローウィング 黒川 征治 黒河 孝幸 黒木 智 黒木 美智子 黒羽 薫 YOSHI (TREASURE) 桑原 仁 桑原 浩 見目 清 甲田 文一 高知医療センター すこやかA 合同会社 WHH 合同会社 シンケールス 河野 真明 株式会社 神戸製鋼所 興和株式会社 コカ・コーポラーズジャパン株式会社 古賀印刷株式会社 小久保 真英 小倉守恒本町郵便局 小嶋 美奈子 古谷 順良 小玉 智美 後藤 修平 後藤 雅 小西 秀明 小林 明恵 小林 盾典 紺野 美智子 財津 克典 斉藤 孝 齊藤 なみ子 斎藤 正博 斉藤 淑子 酒井 あゆみ 酒井 恵三朗 酒井 三貴子 阪上 正 榊原 悠児	榊原 義夫 株式会社 阪口メンテナンス 佐賀健康づくり財団 坂田 浩章 坂田 年 酒徳 浩之 阪本 哲男 嵯峨山 聖子 櫻井 祐記 座古 尚子 篠井 智恵子 笹川 裕幸 笹川 泰弘 佐々木 大輔 佐々木 雄一 佐藤 明子 佐藤 公則 佐藤 薫美 佐藤 拓道 佐藤 尚司 佐藤 英俊 佐藤 浩樹 佐藤 浩 佐藤 町子 佐藤 稔 澤田 敦子 澤田 計 沢田 祐子 サン・マネージメント株式会社 株式会社 三平商会 椎名 延年 椎原 春美 CBC株式会社 JFE商事株式会社 JFEスチール株式会社 塩津 伸司 塩見 志満子 鹿浦郵便局 水本 忠直 篠崎 功 篠田 章 柴山 良彦 渋江 美恵子 渋谷 幸枝 渋谷 隆次郎 島田 健司 島野 忠之 嶋本 正 清水 貴子 清水 信夫 清水 美穂 清水 康子 清水建設株式会社 志村 美紀 下林 正大 一般社団法人 ジャパンケルクラブ 大阪ブロック協議会 株式会社 主婦と生活社 特定非営利活動法人 小児がん・まごころ機構 白井松新薬株式会社 一般社団法人 信託協会 新谷 葵 菅原 裕子 杉下 初志 杉田 完爾 杉元 征二 杉本 束	株式会社 スコット 鈴木 亜津子 鈴木 彩 鈴木 純也 鈴木 千穂 鈴木 正洋 鈴木 麻由 鈴木 美津子 鈴木 優輔 鈴木 美文 須藤 壮太郎 住友商事株式会社 住友ファーマ株式会社 医療法人 すみれ会 中央病院 一般社団法人 生命保険協会 税理士法人 山根会計事務所 関 真幸 セラフィック株式会社 一般社団法人 全国銀行協会 一般社団法人 全国信用金庫協会 株式会社 相建 双日株式会社 曽我 高臣 曽根 宏磯 園 克彦 園部 かおる 染谷 良明 第一生命ビジネスサービス株式会社 第一生命労働組合 大阪南支部 第一生命保険株式会社 札幌総合支社 第一生命保険株式会社 第一生命労働組合 首都圏営業本部コンサルティング営業室 だいき動物病院 高橋 大同特殊鋼株式会社 多賀 哲男 高瀬 一使徒 高田 明子 高田 尊信 高橋 和子 高橋 キヨ子 高橋 健一郎 高橋 建太 高橋 繁雄 高橋 晶子 高橋 政勝 高橋 まどか 高畑 由希子 高松 佐代子 高松 英夫 高山 香世 宝田 健太郎 滝口 史 滝口 順正 武石 香 武石 友哉 竹内 次郎 嶽小原 恵 竹島 開 武田 凜人 竹中 ゆか 武山 ゆかり 田尻 健 立井 有希 株式会社 立石コーポレーション 田中 達男	田中 時子 田中 雄 谷山 健太郎 玉井 宏明 玉川 京子 丹野 泰 有限責任事業組合 チャイルドケア研究所 中外製薬株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 張 光陽 丁田 美奈子 蝶理株式会社 塚田 薫代 塚本 敏彦 有限会社 築地につしん太助 津久見ライオンズクラブ 辻 尚人 辻 正史 辻林 温子 辻本 景英 津田 治 土屋 真理 津野 栄治 寺岡 智欣 東京マリオットホテル 當山 美桜 東洋英和女学院小学部母の会 株式会社 トゥレフェリーチェ 渡海 至康 砥上 梨枝子 徳永 真佑子 板内 多恵 一般財団法人 凸版印刷三幸会 株式会社 トップツーシステム 土手 多喜子 殿畑 正生 トビー工業株式会社 富田 基生 外山 万起子 富山福祉短期大学 豊田 純子 豊田通商株式会社 水琴トライムボランティア連合 鳥沢 竹彦 トレックジャパン株式会社 内藤 龍平 直方ライオンズクラブ 永井 しづか 永井 康志 中尾 憲治 中川 好映 長崎県五島保健所 中澤 和男 中澤 弘美 中嶋 幸生 長瀬産業株式会社 中田 哲司 中野 澄枝 永野 孝志 長野 俊一 中野 啓史 長野 美紀子 中畑 龍俊 永原 勢津子 中道 雅美
--	--	---	---



中村 大介 有限会社 中村産業 仲本 千佳子 株式会社 なゆた 成田 幸子 名和 久子 南部 昌弘 新村 昌弘 西 正 西 美佐子 西尾 拓 西川 克己 西川 信吾 西島 加代子 西嶋 幸子 西出 稔 西部 雅 西村 和真 西村 拓朗 株式会社 日幸金属工業所 日鉄物産 株式会社 二宮 和子 二宮 法久 一般社団法人 日本CL建設的な生き方学会 日本医科大学千葉北総病院 一般社団法人 日本建設業連合会 社会貢献活動協議会 日本製紙連合会 日本製鉄株式会社 日本生命保険相互会社 新座営業部 日本生命保険相互会社 東松山営業部 日本労働組合総連合会 株式会社 ニヤクコーポレーション 認定特定非営利活動法人 朴の会 ノーベルファーマ株式会社 野島 尚恵 野中 龍幸 ノバルティス ファーマ株式会社 延 浩子 Harvey Paul A.S. 萩原 明子 橋浦 有記子 橋都 浩平 橋立 道生 橋本 敏男 馬上 星一 馬上 豊 長谷川 朝直 長谷川 真知子 服部 都史子 服部 陽児 パナソニックホームズ株式会社 株式会社 はなまる 大場 信賢 馬場 恵子 有限会社ハビイ 濱 克彦 濱田 雅裕 浜谷 秀孝 濱野 幸枝 早川 晶 早川 秀夫 林 志郎 早田 千鶴子 速水 節子 原田 七海	公益財団法人 原田積善会 針生 清高 萬實 昶志 阪和興業株式会社 株式会社 ビーエル 東山 ともみ 東山内科・小児科 人見 琢也 火ノ川 好信 株式会社 Human 平井 博夫 平尾 美和 平澤 和美 平瀬 友博 平山 忠之 弘前SDGsライオンズクラブ 広羽 一昭 ファリーダ・ラーマン 株式会社 Fortune KK 深澤 晋 福井県丹南健康福祉センター 福井市総合ボランティアセンター 福井フェニックスライオンズクラブ 福岡国際中央ライオンズクラブ 福岡中央ライオンズクラブ 福岡花ライオンズクラブ福岡クローパーククラブ支部 福澤 桂司 福田 穂菜美 福田 佳子 福地 誠一郎 富国生命保険相互会社 札幌支社 富国生命保険相互会社 藤川 京子 藤田 秀明 富士電機株式会社 藤野 香織 藤平 一雄 藤村 正 渡邊 秀子 藤本 敏彦 藤本建設株式会社 藤山 優子 武州製薬株式会社／武州製薬ユニオン 藤原 加奈 二井 立恵 株式会社 ブランワークス プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社 普連土学園 宗教委員会 別所 文雄 ベルテック トレーディング株式会社 一般社団法人 不動産協会 株式会社 星企画 細井 廣一 細田 裕美 まつもと小児科 穂波ライオンズクラブ ほのぼのサロン 堀川 哲男 公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団 横 富貴子 巻島 真奈美 牧野 裕希 眞尾 貴年 増田 精子 榎谷 真	増野 隆文 松井 秀文 松岡 肇 松川 景子 松阪 直美 松田 恵子 松田 信夫 有限会社 松田興業 松永 憲一郎 松見 玲香 松村 伸子 松本 登紀子 松本 陽代 松山 伯諭 丸谷 杏菜 丸紅株式会社 丸山 昌宏 丸和バイオケミカル株式会社 三浦 厚子 三浦 浩幸 三重ライオンズクラブ FWT 三上 正美 三川 勝夫 三木 聖子 水島 俊雄 水島 正人 水代 富雄 水本 清貴 三井ガーデンホテル柏の葉 三井物産株式会社 三菱商事株式会社 三菱電機株式会社 峰岸 透 宮城 智央 宮口 恭平 三宅 ともこ 宮崎 志保 宮里 裕子 宮澤 敦子 宮下 希喜 宮本 薫 宮本 浩樹 武藤 秀行 村上 由利子 村上 朝子 村上 柊馬 村上 勇馬 村林 栄子 村松 毅 村松 弘子 村本 英治 村山 将人 村山 祐季子 室内 由香 室田 健太郎 室谷 哲哉 目黒 悦子 NPO法人目黒ユネスコ協会 メディカルライオンズクラブ メディカル・モバイル・コミュニケーションズ合同会社 妻島 毅史 毛利 将吾 元田 雅弘 本山 寛 森 賢治	森 南津美 森 由紀夫 森 陽子 森島 美寿季 森田 裕美 守屋 直緒 森山 康基 森山 さやか 守山内科・小児科 森脇 浩一 モルガン・スタンレー 八木沢 由美 安島 竜也 安田 信保 安武 新一郎 柳澤 隆昭 柳原 郁子 山内 正成 有限会社 山川土地建物 八巻 恭治 山口 利子 山口 佑樹 山崎 晃 山崎 麻乃 やまさき えりか 山崎 聡 山崎 敏子 山崎 文之 ひぐらし 山下 公輔 山下 純子 山下 雄一 山田 勝三 山田 研一 山田 浩子 山田 豊 大和 健一 山根 陽一 山部 智寿 山室 達夫 山本 暁彦 山本 勝利 山本 忠敏 山本 俊幸 山本 信江 ヤマモト ヒロノブ 山本 麻衣 横尾 智子 横幕 航平 横松 康介 横山 真也 横山 幸恵 吉井 智美 吉岡 佑樹 吉川 隆 吉田 知史 吉野 純爾 吉野 智子 株式会社 吉半 吉村 公一 株式会社 淀川製鋼所 株式会社 ハルインテリアデレクションズ 米生清子先生を偲ぶ会 米倉 邦子 米山 望 ライオンズクラブ国際協会337A地区 ガバー・古川隆
--	---	---	--

ライオンズクラブ国際協会337-A地区FWT委員会 ライオンズクラブ国際協会337B地区 SCP・FWT委員会 ライオンズクラブ国際協会337E地区 ライオンズクラブ国際協会330-A地区スペシャルクラブ・FWT委員会 ライオンズクラブ国際協会332-B地区 ライオンズクラブ国際協会330C地区 ライオンズクラブ国際協会332-A地区 2R	LIVE EMPOWER CHILDREN2022 ラッセル・インベストメント株式会社 株式会社 リアーテ 利川 芳江 一般財団法人 緑風会 株式会社 リンクフロンティア 若木 換	若杉 和枝 若生 みどり 和田 和子 和田 敏和 和田 美穂子 ワタキューセイモア株式会社 和田商店	渡邊 綾子 渡邊 貴大 渡部 眞澄 わたなべ みなこ 有限会社 ワタナベフォトスタジオ
---	--	--	---

上記の他、アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（4,982件）をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

募金者一覧

※敬称略

NPO 法人 M.A・ART BALLET COMPANY yu are 美容室 片岡 裕美 維新エンターテインメント株式会社 医療法人 三幸会 小澤診療所 医療法人 たにざき皮膚科クリニック 海のそばのカフェ bliss point 株式会社 Fortune KK 株式会社 K2 インターナショナルジャパン 吉祥寺 ひまり屋 銀座 いちべえ 荻窪店	成蹊大学ボランティア支援センター 税理士法人 松本 聖路加小児医療センター ソフトバンク株式会社 第一生命保険株式会社 大阪コールセンター 第一生命労働組合 大阪北営業職支部 大分県立臼杵高等学校 張 光陽 とんの幼稚園 長澤 一成	中島まさひろカップ親睦ゴルフ大会 中田中央歯科医院 沼津経営塾 八戸まべちライオンズクラブ はるこどもクリニック 福岡徳洲会病院 道の駅 伊豆ゲートウェイ函南 道の駅 風穴の里 明治安田生命保険相互会社 営業人事部 メディカルライオンズクラブ	ヤフー株式会社 有限会社 築地にっしん太助 有限会社 永楽食堂 有限会社 ミートステーション らくじゅ沼津足高館 レスリーチャンバースデー募金 レモネードスタンド in ふくおか 実行委員会 ローソン浜寺石津西 4 丁店
---	---	--	---

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

- ※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。
- ・寄付：特定の個人や法人から集まった募金
 - ・募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

公益財団法人がんの子どもを守る会2022年度事業報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

2023年6月9日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL03-5825-6311（代表）